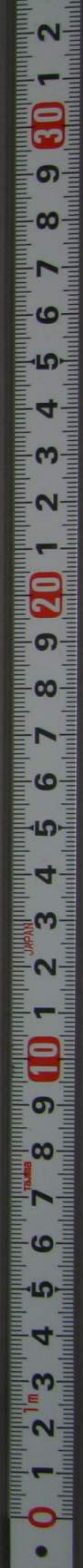


府  
縣  
制



1901



414  
A2611



第一章 總則

第十條 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ處分ニ付其財産處分ヲ要スルトキハ内務大臣之ヲ定ム

府縣境界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ府縣境界モ亦自

ラ變更スルモノトス

第二條 府縣内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其府縣住民トス

第三條 府縣ハ其府縣有財産及營造物ノ管理并府縣稅徵收方法ニ關

シ規則ヲ設ケ三圓以下ノ罰金ヲ付スルコトヲ得其罰金ハ府縣ノ收

入トス

規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス

規則ハ府縣ノ公告式ニ依リ之ヲ公告ス可シ

第二章 府縣會

大正十一年四月贈

第四條 府縣會ハ府縣内郡市ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

郡市ニ於テ選舉ス可キ府縣會議員ノ定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但各郡市ヲシテ少クトモ一人ノ議員ヲ選舉セシム可シ

東京市京都市大阪市ニ在テハ特ニ府會議員ヲ選舉セス其市會議員ヲ以テ之ニ充ツ但勅令ヲ以テ其府會ニ出席スヘキ議員ノ數ニ制限ヲ付スルコトアル可シ

第五條 府縣會議員ノ選舉ハ市ニ在テハ市制ニ從ヒ市會及市參事會會同シ市長ヲ會長トシテ之ヲ行ヒ郡ニ在テハ郡制ニ從ヒ郡會ニ於テ之ヲ行フ

第六條 市制町村制ノ規定ニ從ヒ府縣内市町村ノ公民中選舉權ヲ有シ一年以上直接國稅十圓以上ヲ納ムル者及郡制ノ規定ニ從ヒ大地主中選舉ニ依ラスシテ自ラ郡會議員ト爲ル者又ハ自ラ其選舉ニ加

ハルコトヲ得可キ者ハ總テ府縣會ニ被選舉權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲メ市町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同府縣内ニ在リ及他ノ要件ヲ備フルトキハ仍ホ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

其府東京府ハ警視廳トモ縣ノ官吏及有給吏員神官僧侶其他諸宗教師ハ府縣會議員タルコトヲ得ス

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ每四年其全數ヲ改選ス

東京府京都市大阪府ニ在テハ其市部議員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ從フ但府會ニ於テ解散ヲ命セラレタルトキハ市會モ亦自ラ解散ヲ命セラレタルモノトス

解任ノ議員ハ再選セラレ、コトヲ得

此法律中東京府京都府大阪府々會ノ市部議員トアルハ東京市京都  
市大阪市ノ市會議員ヲ謂ヒ郡部議員トアルハ東京市京都市大阪市  
ヲ除キ其他ノ部分ニ屬スル議員ヲ謂フ

第八條 議員中議員アルトキハ可成次回ノ府縣會開會前補闕選舉ヲ  
行フ可シ但遲クトモ六ヶ月以内ニ選舉ス可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第九條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ可シ

第十條 選舉ヲ終リ當選人ノ定マリタルトキハ郡市長ハ直ニ當選者

ニ其當選ノ旨ヲ告知シ及ヒ當選人ノ氏名ヲ府縣知事ニ報告ス可シ

其當選ヲ辭セントスル者ハ七日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立テ并關  
係ノ郡市長ニ通知ス可シ

一人ニシテ數ヶ所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ

應シ何レノ當選ヲ辭ス可キコトヲ府縣知事ニ申立并關係ノ郡市長  
ニ通知ス可シ

第十一條 前條ニ依リ郡市長ニ於テ辭選ノ通知ヲ受取リタルトキハ

順次其次點者ヲ以テ當選人トシ前條第一項ノ手續ヲナス可シ

數ヶ所ノ選舉ニ當リタル者期限内ニ前條第二項ノ申立ヲ爲サ、ル

トキハ總テ其選舉ヲ辭スルモノト見做シ府縣知事ヨリ其旨ヲ關係

ノ郡市長ニ達シ郡市長ハ前項ニ依リ當選人ヲ定ム可シ

第十二條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ

日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

第十三條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スル

トキハ其當選ハ無効トス但此場合ニ於テ就職前發覺シタルトキハ

次點者ヲ以テ當選トシ就職後發覺シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フ可  
シ

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員タルノ資格ヲ失フモノトス此場合ニ於テハ補闕選舉ヲ行フ可シ

第十四條 府縣會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ府縣知事ニ通知スルコトヲ得此場合ニ於テ知事ハ三日以内ニ相當ノ處分ヲ爲スヘシ但特ニ調査ヲ要スル事情アルトキハ其調査ニ必要ナル時日ハ之ヲ除クコトヲ得

第十五條 前條ノ通知ヲ受ケ知事ニ於テ之ヲ無資格ト爲シタルトキハ其無資格トセラレ之ニ不服アル議員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ無資格トセラレタル日ヨリ二日以内ニ其出訴ノ趣ヲ府縣知事ニ通知ス可シ  
本條ノ出訴ノ爲メニ知事ノ處分ヲ執行ヲ停止セス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 第九條乃至第十五條ノ外選舉ニ關シ必要ナル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 府縣會ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ此法律ニ準據シテ府縣ノ公共事務ニ關スル事項其他法律命令ニ依リ其權限内ニ屬スル事項ヲ議決スルモノトス

府縣ノ公共事務トナスモノ左ノ如シ

- 一 府縣稅備荒儲蓄金其他府縣收入ノ賦課徵收及管理ニ關スル事項
- 二 府縣有ノ土地其他ノ財産ノ管理ニ關スル事項
- 三 府縣會議諸費ニ關スル事項
- 四 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル衛生教育勸業又ハ慈善ノ事業及營造物ニ關スル事項
- 五 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル道路河川橋梁等ノ土木工事ニ關ス

ル事項

六 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル廳舎監獄等ノ建築修繕ニ關スル事項

七 國界府縣界其他諸種ノ建標ノ類ニ關スル事項

第十八條 府縣會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 新ニ第三條ノ規則ヲ設ケ並改正廢止スル事
- 二 府縣ノ歲入出豫算ヲ定ムル事
- 三 決算報告ヲ認定スル事
- 四 府縣稅ノ賦課徵收法ヲ定ムル事
- 五 府縣有不動産ノ賣買交換讓渡讓受并質入書入ヲ爲ス事
- 六 府縣知事又ハ府縣參事會ニ委任シタルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 七 府縣有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

第十九條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

府縣會ハ其全府縣又ハ一部分ノ公益ニ關スル事件ニ付府縣知事又ハ監督官廳ニ建議スルコトヲ得

第二十條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可カラサルモノトス

第二十一條 府縣會ハ毎定期改選後又ハ解散後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選ス可シ其任期ハ議員ノ任期ニ從フ  
議長副議長共ニ故障アルトキハ府縣會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第二十二條 府縣知事若クハ特ニ知事ノ委任ヲ受タル府縣ノ官吏ハ府縣會會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ發言請求ノ順序ニ

拘ハラス何時ニテモ之ヲ許ス可キモノトス

第一項ノ委任ヲ受タル官吏ハ府縣會ノ承諾ヲ經タル場合又ハ請求ニ依リタル場合ヲ除クノ外ハ二名ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十三條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク可シ其會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限り臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ毎回七日以内トス

府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集狀ヲ發シ并會議ノ事件ヲ告知スルハ會議ノ十四日前タル可シ但急施ヲ要スル場合ニ限り三日前ニ告知スルコトヲ得

府縣會會期ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第二十四條 府縣會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付開會再回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限りニアラス

第二十五條 府縣會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十六條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニアラザレバ府縣會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十七條 府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ郡制第一條第四ヨリ第七ニ至ル規定ニ依ル可シ但府縣會ノ議決ニ依リ指名推選ノ法ヲ用フハコトヲ得

第二十八條 府縣會ハ議員ノ互選ヲ以テ七名以下ノ決算報告審査委員ヲ置クコトヲ得

前項ノ審査委員ハ審査ノ爲メ必要ナル諸帳簿及證書類其他會計ノ現況ヲ檢閲スルコトヲ得

第二十九條 府縣會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニアラス  
一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルト

キ

二 府縣知事ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用非スシテ其可否ヲ決ス可シ

傍聴ノ爲メ入場スルコトヲ得ルハ議員又ハ府縣廳官吏若クハ府縣

吏員委員ノ紹介アル者ニ限ル

第三十條 議員ハ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 議員ハ他人ニ對シ無禮ノ語ヲ用非及人身上ノ誹譏ニ涉

ル言論ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日

ノ會議ヲ開閉シ并延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議事日程ハ府縣知事ヨリ提出ノ議案ヲ先ニスヘシ但他ノ議事緊急

ノ場合又ハ議事ノ都合ニヨリ他ノ議事ニ涉ルノ餘暇アル場合ニ於

テハ此限ニアラス

第三十三條 會議中此法律若クハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ

紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消

サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁

止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシム可シ若シ強暴ニ涉ル者アルトキハ

警察官ニ命シテ之ヲ處分セシムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ

之ヲ閉ツルコトヲ得

第三十四條 議員中議場ノ秩序ヲ紊ルコト數回ニ及フ者アルトキハ

議長又ハ議員ノ發議ニ依リ府縣會ノ議決ヲ以テ七日以内一定ノ時

間出席ヲ停止スルコトヲ得

第三十五條 會議中傍聴席ニ於テ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧騒

ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若シ

命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官



ニ命シテ之ヲ處分セシムルコトヲ得  
傍聽席騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セ  
シムルコトヲ得

第三十六條 府縣知事若クハ特ニ其委任ヲ受<sup>タル官吏</sup>ケル者及議員ハ議場ノ  
秩序ヲ紊リ及議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起ス  
ルコトヲ得

第三十七條 第三十三條第三十五條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲  
メ府縣知事ハ每會期其府縣ノ警部中ニ就キ一名若クハ二名ニ議場  
掛專務ヲ命スヘシ但其警部ハ傍聽ヲ禁シタル會議ニ在テハ議場内  
ニ留マルコトヲ得ス

第三十八條 府縣會ニ三名以下ノ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ  
掌理セシム但其人員ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル  
書記ハ議長之ヲ選任ス

第三十九條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛  
末并出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以  
上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前府縣會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議  
事録中ニ其氏名ヲ記載シ置ク可シ

第四十條 府縣會ハ議事細則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ認  
可ヲ受テ之ヲ施行ス可シ

第三章 府縣參事會、吏員及委員  
第四十一條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ五名以上八名以下ノ名譽職參  
事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

東京府京都府大阪府ニ在テハ郡部議員ニ於テ互選スル名譽職參事  
會員ヲ五名以上八名以下トシ仍ホ東京市京都市大阪市ノ市會名譽  
職參事會員ヲ以テ府會ノ名譽職參事會員ニ充ツ

第四十二條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ニ於テ裁決ヲ爲ス

場合ニ於テハ前條名譽職參事會員ノ外其府縣廳ニ奉職ノ高等官二名以下ヲ以テ參事會員ニ加フルモノトス

第四十三條 參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長ト爲ス議長故障アルトキハ書記官之ヲ代理ス知事書記官共ニ故障アルトキハ八年長ノ會員ヲ議長ト充テ之ニ充ツ

第四十四條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ其議員中ヨリ之ヲ互選ス

府縣會ハ名譽職參事會員ノ補充員四名以下ヲ互選シ闕員アルトキ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第四十五條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期满限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

名譽職參事會員ノ補闕選舉ハ次回ノ府縣會ニ於テ之ヲ行フモノトス但定數三分ノ一以上ノ闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二ヶ月以内

ニ臨時其選舉ヲ行フ可シ

東京府京都府大阪府ニ在テハ郡部名譽職參事會員ニ對シ前項ヲ適用スルモノトス

此法律中東京府京都府大阪府府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ東京市京都市大阪市ノ市會名譽職參事會員ヲ謂ヒ郡部名譽職參事會員トアルハ郡部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ謂フ

第四十六條 府縣參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 府縣會ノ權限内ニ屬スル事項ニシテ其委任ヲ受タルモノヲ處理スル事

二 府縣會ノ權限内ニ屬スル事項ニシテ臨時急施ヲ要スルモノ又ハ輕微ノ事件ニシテ知事ニ於テ臨時ニ府縣會ヲ召集スルコトヲ要セスト認メ出席名譽職參事會員ノ過半數ニ於テ之ニ同意シタルモノアルトキ府縣會ニ代テ議決ヲ爲ス事

- 三 府縣有財産又ハ營造物ノ管理ニ關シ必要ナル議決ヲナス事
  - 四 臨時必要アルトキ府縣ノ出納ヲ検査スル事
  - 五 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ニ付其次第順序ヲ定メ其他必要ナル議決ヲナス事
  - 六 總テ府縣ノ公共事務ニ關シ意見ヲ述フル事
  - 七 府縣知事其他官廳ノ諮問アルトキ其意見ヲ述フル事
  - 八 其他總テ法律命令ニ依テ委任セラル、事務ヲ處理スル事
- 第四十七條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若シ會員半數以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ
- 第四十八條 府縣參事會ハ議長及名譽職參事會員半數以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可  
否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル
- 議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上

之ニ署名ス可シ

- 第四十九條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス
- 前項除名ノ爲メニ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ臨時ニ府縣會議員中該事件ニ關係ナキ者ヲ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第四十一條ノ定數ニ滿タシムヘシ但補充員ヲ置タル場合ニ於テハ補充員ヲ以テ先ツ之ニ充ツ可シ
- 第五十條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ二府縣以上ノ郡又ハ市町村ニ交渉スルモノアルトキハ内務大臣之ヲ決定ス
- 第五十一條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ

於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京都市大阪市外ノ市町村若クハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス市部參事會員及郡部參事會員ニ於テ會同議決スヘキ事件ニ付テハ市部名譽職參事會員ハ郡部名譽職參事會員ノ定數ト同數以下ヲ限リ出席スルモノトス但會同議決ニ出席ス可キ者ハ市部名譽職參事會員ニ於テ豫メ其互選ヲ以テ之ヲ定メ置ク可シ

第五十二條 府縣知事ハ法律命令ノ規定ニ從ヒ府縣一切ノ事務ヲ指揮監督シ府縣會ノ議決ヲ施行シ及府縣參事會ノ議決ニ準據シテ府縣有ノ財産及營造物ヲ管理シ并府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

府縣知事ハ外部ニ對シテ府縣ヲ代表シ府縣ノ名ヲ以テ往復シ若クハ公布スル總テノ文書ニ署名捺印ス但府縣ニ於テ他人ニ對シ義務

ヲ負擔ス可キ證書及委任狀ニハ知事ノ外參事會員二名以上之ニ署名捺印ス可シ

前項ノ文書中府縣會又ハ參事會ノ職權ニ屬スル事項ニシテ其議決ヲ經タルモノハ總テ其旨ヲ記入スヘシ

第五十三條 急施ヲ要スル場合ニ於テ府縣參事會ヲ招集スルノ暇ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事項ヲ專決處分スルコトヲ得此場合ニ於テハ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告ス可シ

第五十四條 府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ費用ヲ以テ府縣有ノ財産又ハ營造物ノ管理若クハ土木工事ニ必要ナル府縣吏員ヲ置クコトヲ得但其任免監督ハ總テ府縣官吏ニ準シ府縣知事之ヲ掌ル府縣吏員ノ給料手當退隱料及任期ノ類ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十五條 府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置ク

コトヲ得其選舉又ハ選任ノ方法ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル數人ヲ以テ委員ヲ組織スル場合ニ於テ委員長ノ選舉又ハ選任ノ方法亦同シ

委員ハ名譽職トス

第五十六條 委員ハ知事ノ監督ニ屬シ府縣公共事務ノ一部ヲ管理シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

第四章 府縣ノ經濟

第五十七條 地方稅及備荒儲蓄金ノ經濟ニ屬スル財產及營造物并備荒儲蓄金ハ此法律施行ノ日ヨリ府縣ノ所有トス但備荒儲蓄金ノ徵收儲蓄及支出方法ハ該法ノ規定ニ依ル

第五十八條 府縣有財產ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第五十九條 府縣有財產及營造物管理ノ費用府縣會府縣參事會及委

員ノ事務費府縣吏員ノ給料退隱料其他諸給與及從來法律命令若クハ慣例ニ依リ并將來法律勅令ニ依リ府縣ノ負擔ト定ムル事件并ニ府縣ノ公共事務ニ關スル一切ノ費用ハ總テ其府縣ノ負擔トス

第六十條 府縣ノ名譽職參事會員及委員ハ旅費滞在日當若クハ月手當ヲ給スルコトヲ得但日當ハ一日一圓五十錢月手當ハ一月四十五圓ヲ超ユルコトヲ得ス

府縣會議員ハ旅費及滞在日當ニ限リ之ヲ給スルコトヲ得日當ノ額ハ前項ニ同シ

第六十一條 府縣ノ支出ハ府縣稅其他府縣ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第六十二條 府縣稅トシテ賦課スルコトヲ得可キモノ左ノ如シ

一 國稅ノ附加稅

二 特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加スルヲ常例トス

第六十三條 府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ別段ノ稅法ヲ發布スル迄此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外地方稅ニ關スル規定ニ依ル

府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其府縣ノ全部若クハ市制施行ノ地ニ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

第六十四條 府縣内ノ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲ス者又ハ一戶ヲ構ヘ三ヶ月以上ニ及フ者ハ土地、家屋、營業又ハ戶數ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限リニアラス

第六十五條 府縣ハ所得稅ニ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得但土地家屋又ハ店舗ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ニ付テハ其土地家屋又ハ營業所在ノ府縣ニ於テ賦課シ其他ノ所得ニ付テハ其人ノ所得稅

收納ノ府縣ニ於テ賦課スルコトヲ得ルモノトス

第六十六條 府縣會ハ各市町村内ニ於テ徵收スル府縣稅賦課徵收ノ細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項市町村會ノ議決ハ法律勅令又ハ府縣會ノ議決ニ抵觸スルコトヲ得ス

市町村會ニ於テ府縣會ノ指定シタル期限内ニ其議決ヲ爲サ、ルトキハ府縣參事會ニ於テ其事項ヲ議定ス可シ

第六十七條 營業ノ狀況又ハ收入ヲ標準トシテ賦課スル府縣稅ニ付テハ知事ノ發議ニ依リ府縣會ノ議決ヲ經テ賦課額調査ノ爲メ其府縣ノ郡市ニ調査委員會ヲ置クコトヲ得

第六十八條 市町村稅免除ノ規定ハ府縣稅免除ニ對シテモ亦適用スルモノトス

第六十九條 府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣内郡市町村ノ土木工事

又ハ府縣内ノ教育衛生勸業及慈善ノ事業若クハ營造物ニ對シ補助金ヲ與フルコトヲ得

第七十條 府縣會ハ町村ニ於テ徵收スル家屋稅又ハ戸數割ノ全部又ハ一部ノ代納トシテ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニ對シ夫役又ハ現品ヲ出スコトヲ許スコトヲ得

第七十一條 府縣稅ノ賦課ニ對シ錯誤アリト信スル者ハ賦課令狀ノ交付後三ヶ月以内ニ之ヲ其賦課廳ニ申立ツルコトヲ得此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス但申立ノ爲メ其納稅ヲ拒ムコトヲ得ス

七十二條 前條ノ申立ヲ爲シタル後其訂正ヲ得ス又ハ其處分ヲ得ルモ之ニ不服アルトキハ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第七十三條 府縣稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄一ヶ月當リノ割合ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ其賦課廳ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

物件ヲ目的トシ納期ヲ定メテ一定ノ額ヲ賦課スル府縣稅ハ其納期ニ於テ其物件ニ對シ納稅義務ヲ負フ者其額ヲ納ム可シ

府縣稅ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル場合ト雖モ之ヲ還付セス但其義務ノ移轉ヲ受タル者ハ其前納期限ノ終リマテ納稅セサルモノトス

第七十四條 府縣稅ハ各市町村ニ於テ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ之ヲ徵收ス可シ但市町村ハ其徵收費トシテ府縣稅徵收額ノ幾部ニ相

當スル金額ヲ受クルモノトス其歩合及各市町村ノ配當方法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

府縣稅ノ滯納處分ハ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外從來ノ成規ニ依リ郡ニ於テハ郡長市ニ於テハ市參事會之ヲ執行スルモノトス

府縣稅ノ納稅延期ハ特別ノ事情アルモノニ限り府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ同意ヲ得テ之ヲ許スコトヲ得

府縣稅ノ滯納處分ハ身代限處分ノ法ニ準シ先ツ滯納者ノ動產ヲ公賣シ猶足ラサルトキニ不動產ヲ公賣スヘシ

第七十五條 東京府京都府大阪府ニ於テハ府ノ支出ヲ市部及郡部ニ分賦ス其分賦ノ割合ハ關係事業ノ利益ノ厚薄ニ依リ府會ニ於テ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受ケテ施行ス可シ

前項市部ノ分賦額ハ市ニ於テ之ヲ市ノ豫算ニ編入シ市稅トシテ之

ヲ徵收シ其總額ヲ府金庫ニ納ム可シ郡部ノ分賦額ハ此法律ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス但市部議員ハ其徵收ニ關スル議事ニ參與シ及議決ニ加ハラサルモノトス此場合ニ於テ若シ議長副議長共ニ市部議員ナルトキハ郡部議員ニ於テ臨時議長ヲ互選ス可シ

第七十六條 府縣ハ其舊債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ府縣住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限り公債ヲ起スコトヲ得

府縣會ニ於テ公債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ募債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ

府縣公債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ募債ノ時ヨリ五十年以内ニ還了ス可シ

歲入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ニシテ其



年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノハ本條ノ例ニ依ラス但府縣會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第七十七條 府縣知事ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算表ハ府縣會ノ議決ニ付スルノ前府縣參事會ノ審査ニ付ス可シ若シ府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ知事ハ參事會ノ意見ヲ豫算表ニ添ヘ府縣會ニ提出ス可シ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定メ并費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 豫算表ハ毎年通常府縣會ノ議決ヲ取り之ヲ内務大臣ニ報告シ并府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示ス可シ  
府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シ施行スルモノ又

ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ經費ヲ定メ連年支辨トシテ之ヲ施行スルコトヲ得  
豫算表ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ其府縣ノ事務

報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ  
第七十九條 歳入出豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ

置クコトヲ得豫備費ハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ同意ヲ得テ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得ルモノトス但府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第八十條 府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ有給ノ收入役一名及付屬ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得收入役ハ府縣參事會ノ同意ヲ得テ府縣知事之ヲ選任ス其他ハ第五十四條ニ依ル

府縣收入役ハ府縣ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

府縣ニ收入役ヲ置カサルトキハ收入役ノ擔任事務ハ府縣廳ノ會計官吏ニ於テ之ヲ管理ス可シ但其出納及帳簿ハ之ヲ官金ト分別ス可シ

第八十一條 歲入出豫算表ニ依テ定マリタル收入支出ハ府縣知事ニ於テ收支命令ヲ發シ豫備費ノ支出其他總テ臨時ノ收支命令ハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ同意ヲ得テ之ヲ發ス可シ

第八十二條 收入役又ハ其事務ヲ管理スル府縣廳官吏ハ前條ニ準據シタル命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役又ハ其事務ヲ管理スル府縣廳官吏ノ責任ニ歸ス

第八十三條 府縣ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クトモ

一回臨時検査ヲ爲スコシ検査ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル高等官之ヲ爲シ臨時検査ニハ府縣參事會員ノ立會ヲ要ス

第八十四條 決算ハ收入役又ハ其事務ヲ管理スル府縣廳ノ官吏ニ於テ會計年度後四ヶ月以内ニ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ之ヲ府縣參事會ノ審査ニ付シ且自己及參事會ノ意見ヲ附シテ次回ノ通常府縣會ノ認定ニ付ス可シ

決算報告書并ニ之ニ關スル府縣會ノ議決ハ府縣知事ヨリ之ヲ内務大臣ニ報告ス可シ

第五章 府縣行政ノ監督

第八十五條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第八十六條 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若クハ裁決ヲ受タル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ其裁決ヲ受タル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得可キ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アルモノ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニアラス

第八十七條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ内務大臣ハ之カ爲メニ其行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第八十八條 府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ

背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止ス可シ其公益ヲ害スルニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタルトキハ府縣知事ハ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ直ニ内務大臣ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ其執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ處分ニ對シ府縣會又ハ府縣參事會不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十九條 府縣會ニ於テ議長副議長ヲ選舉セサルトキハ次回ノ會期ニ至ルマテ府縣知事ニ於テ其府縣ノ歲入出豫算及徵收方法ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

府縣會ニ於テ參事會員ヲ選舉セサルトキハ次回ノ會期ニ至ルマテ府縣知事ニ於テ參事會ノ職權ニ屬スル事項ヲ專決處分スルコトヲ得  
第九十條 府縣會ニ於テ法律命令ニ依テ府縣ノ負擔ニ屬シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ定ムル所ノ支出ニシテ行政上必要ノ費用ヲ議

決セス又ハ議決スト雖其當ヲ得サルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請フコトヲ得

公衆ノ安寧ノ爲メ猶豫ス可ラサル堤防費及公衆ノ交通ノ爲メ猶豫ス可ラサル道路修繕費又ハ橋梁修繕若クハ架換費其他猶豫ノ爲メ公衆ノ危嶮ヲ生スヘキ事業ノ費用ハ前項ノ例ニ依ルコトヲ得

第九十一條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其議決ス可キ議案ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ招集前正當ノ手續ヲ以テ告知セラレタル議案ヲ第二十三條第一項ニ定メタル期限内ニ議了セサル場合ニ於テ其事緊急ニシテ次回ノ會期ヲ待ツコト能ハサルモノアルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請フコトヲ得但其議決セス又ハ議了セサル議案歳入出豫算ニ係ルトキハ内務大臣ハ其前年度ノ豫算總額以内ノ額ヲ以テ指揮ス可シ

本條ニ於テ議決セスト稱スルハ緊急ノ處分ヲ要スル事件ニシテ之

ヲ否決スレハ直チニ府縣行政ノ支障ヲ生スヘキ場合ニ於テ故意ニ之ヲ否決シタルモノヲモ包含ス

第九十二條 内務大臣ハ府縣ノ歳入出豫算ノ支出費目中府縣ニ於テ負擔スヘカラスト認ムルモノアルトキハ之ヲ削除シ及其府縣ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若クハ削減スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺ス可シ

第九十三條 府縣會ハ勅令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ三ヶ月以内ニ議員ヲ改選ス可シ  
前項改選ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦改選スルモノトス但改選參事會員ノ就職スル迄在職ス可シ  
府縣委員ハ府縣會ノ解散ニ依リ改選スルノ限リニ在ラス但改選府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ改選スルコトヲ得

府縣會改選結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣參事會府縣會ニ代テ之ヲ議決ス可シ

第九十四條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ府縣ノ公債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ及償還前其募債ノ方法利息ノ定率若クハ償還ノ方法ヲ變更スル事(第七十六條第一項第二項)

二 府縣特別稅ヲ新設スル事

三 地租四分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五 府縣内直接國稅徵收額百分ノ三十五ヲ超過シテ府縣住民ニ府縣稅ノ負擔ヲ受ケシムル事

六 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第九十五條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣ノ認可ヲ受

クルコトヲ要ス

一 府縣有不動産ノ賣却讓渡并質入書入ヲ爲ス事

二 第七十八條第二項ニ依リ連年支辨ノ議決ヲ爲シ及其年期内ニ

其議決ヲ變更スル事

第九十六條 府縣吏員ノ懲戒ハ官吏ノ懲戒ニ準シ府縣知事之ヲ行フ但收入役ノ懲戒ハ府縣參事會ノ同意ヲ以テスルヲ要ス

第六章 附則

第九十七條 此法律施行ノ日ヨリ東京市京都市大阪市ニ在テハ市制中府縣知事又ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ許セル事項ニ付テハ其不服ノ場合ニ於テ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ルモノハ直チニ

内務大臣ニ訴願シ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノハ直チニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十八條 市制町村制施行ノ爲メニ定メタル直接税間接税ノ類別ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦適用スルモノトス

市制町村制郡制及本制施行ノ爲メ將來ノ租税ニ付直接税ト爲ス可キモノハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス可シ

第九十九條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第一百條 此法律施行ノ後ハ市制第二百二十二條第三ニ定ムル附加税徵收ノ許可ハ東京市京都市大阪市ニ在テハ地租七分ノ三、二五(二十八分ノ十三)及直接國税滿額其他ノ市ニ在テハ地租ノ附加税ニ付テハ其七分ノ一半(十四分ノ一)ヲ超過スル時之ヲ要スルモノトス

第一百一條 府縣内ニ在ル島嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令ヲ

以テ特例ヲ設クルコトヲ得

郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出ス可キ府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第一百二條 明治十三年四月第十五號布告府縣會規則明治十三年四月第十六號布告地方税規則第三條費目中區町村土木補助費郡區廳舍建築修繕費郡區吏員給料旅費及廳中諸費戸長以下給料旅費浦役場費明治十四年二月第六號布告明治十四年二月第八號布告區郡部會規則其他此法律ニ抵觸スル成規ハ本制施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第一百三條 内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

